武蔵村山市消防団ＮＥＷＳ Vol.8

平成２１年武蔵村山市消防団出初式

平成２１年１月１１日（日）、野山北公園運動場において、武蔵村山市消防団出初式が行われました。当日は荒天にも恵まれ、多くの方々が来場し、パレードや消防演技・一斉放水などに大きな歓声と拍手が送られました。

東大和警察署白バイ隊の先導により指揮車及び消防ポンプ車８台による市内パレードが行われた後、式典会場では東京消防庁予防部佐藤参事、姉妹都市である長野県栄村消防団保坂団長ら多くのご来賓をお迎えし、比留間団長以下１９９名の団員が参加し、式典、徒列行進、分列行進、消防操法等を行いました。

消防団員入場の徒列行進には、本年も北多摩西部消防少年団員がプラカード手として参加、また、市立第十小学校吹奏楽クラブの皆さんにもご参加いただき、行進や表彰時に演奏をしていただいたほか、日頃の練習の成果もご披露いただき、式典に華を添えていただきました。

出初式フォトギャラリー

a fire brigade flash

全分団車両による市内パレード

徒列行進

団長から市長へ人員報告

消防団長訓示

市立第十小学校吹奏楽クラブ演奏

第五分団消防演技

第四分団消防演技

つけましたか？住宅用火災警報器！

東京消防庁管内では、平成２２年４月からすべての住宅の全居室に住宅用火災警報器の設置が義務付けられます。火災による死者の８割は住宅火災によるもので、その５割は逃げ遅れによるものです。火災の早期発見のためにも、住宅用火災警報器を設置しましょう！

消防団員募集！

自分たちのまちは 自分たちで守ってみませんか？

《問い合わせ先》
消防団事務局　武蔵村山市総務部防災安全課
TEL：０４２（５６５）１１１１
http://www.city.musashimurayama.tokyo.jp
防災・防犯・消防団・国民保護「戸締り用心！火の用心！」

消防団ＮＥＷＳ　Vol.８（平成２１年３月発行）／　編集・発行　武蔵村山市消防団

TOPICS

文化財消防演習

１月１８日、文化財防火デーにちなんで、格天井花鳥画及び梵鐘が文化財に指定されている眞福寺において消防演習が行われました。

武蔵村山市消防団からは第三分団が参加し、消防署、寺院関係者とともに消火訓練や放水訓練を行いました。

第三分団から消防団本部へ到着報告

一斉放水

林野火災消防演習

２月２２日、野山北公園運動場において、林野火災消防演習を行いました。この訓練は、春先の行楽期を迎え、林野へ散策等に訪れる人の喫煙やたき火等の不始末から、空気が乾燥している気象状況により林野火災が発生しやすいため、演習を行うもので、消防署、東大和市消防団とともに連携して訓練を行いました。放水連携訓練や延焼阻止線設定訓練のほか、チェーンソーやジェットシューター（背負い式消火水のう）などの資器材取扱訓練も行いました。

副団長から団長へ演習開始報告

分団長から本部への到着報告

チェーンソー取扱訓練

ジェットシューター取扱訓練

意見発表会

２月８日、東京消防庁消防学校において、第２３回消防団員意見発表会が行われました。この意見発表会は、各支部代表者１２名が集まり、消防に対する意見を発表して競うもので、今年度は、北多摩地区を代表して武蔵村山市消防団が出場し、第八分団の金井一三班長が代表者として、消防団に対する熱い想いと意見を発表しました。

意見発表を行う金井班長

TOPICS

金井一三班長発表原稿

プライド ～【消防団員の誇り】～

かしら、中！　突然申し訳ございません。私が消防団に入って初めて聞いた言葉でした。私は武蔵村山市消防団、第８分団班長の金井と申します。私の父も昔は消防団員で私で２代目、祖父もこの町に１号車となる消防車を寄贈したと聞かされております。詰め所は会社の目の前と立地条件も揃っており、言わば消防団のサラブレットと自負しております。そんな私でもこれからの消防団について真剣に考えております。

現在、私の所属する第８分団では、自営業者が激減し、団員の３分の２近くがサラリーマンの人達で形成されており、普段地元にいない団員が増えております。実際、昼間の火災に対してサラリーマンが多い分団ほど、火災現場に行くことが遅れたり、最悪人数が揃わなく、出動できないことも有り得ます。また普段の日、やむなく活動に参加出来ない団員が消防団に対してのやりがいを持てなくなっていると云う事も残念ながら事実のようです。

私が消防団員である実感とやりがいを感じたのは、実際の火災現場に行き消火活動に携わった時からでした。昔は火災現場での活動の出来、不出来を肴に酒を飲み、話題は尽きないものでした。たまたまその火災現場に行けなかった時は話しに入れず、非常に淋しい思いをしたのを覚えております。そして今度は必ず現場に行って活躍してみせると意気込んだものでした。近年、防災意識の高まりから火災件数が減り、この先火災現場を知らずに、団歴を積み重ねていく者も出てくることと思われます。地域としては火災が無くて非常に喜ばしいことですが、自分が消防団員である意識、やりがいが育つ場が減ってしまったことは、むしろ悲しむことなのかもしれません。

今の消防団員のやりがいはいったいなんでしょう？<ただ訓練するだけの消防団>となってしまってないだろうか？私達は昼夜、休日を問わず忙しい合間を縫って、警戒や訓練を行っております。これは自分の住む地域は自分達の手で守るという基本概念によるものです。私にとっての消防団のやりがいとは、自分の活動が地域のために役にたっているという喜びを感じ、訓練により自分の大切な人を救うことが出来る現実を知ることにより、生まれるのだと思っております。またそのやりがいが生まれ、自信と自覚が伴えば、<誇り>という形に変化するのだと思います。この<誇り>を持つ事こそが消防団員に今、最も必要なことだと私は考えております。私達の活動を広く地域住民に理解してもらうには自分達が誇りをもち、地域住民との信頼関係を築き、そしてその期待に応えるために消防団員としての規律や知識を養っていかねばなりません。しかし、実際の所私達の活動や苦労は地域住民にどれくらい理解してもらっているのでしょうか？地域密着型の消防団と云われた良き伝統が薄れ、地域住民との交流も少なくなってきている今、消火活動以外私たちは必要とされているのでしょうか？

私はこれらの事を踏まえ、地域との厚い信頼関係を取り戻し、尚且つ、消防団員にやりがい、誇りを与えられるこれからの消防団を想像しております。それは消火活動だけでなく、例えばライフラインが断たれた時、消防団員の住民に対するリーダーシップの取り方など、今までに無い新しい特別な防災のための訓練を取り入れてみてはどうだろうと思っております。それにより幅広い防災知識を身につけられ、消防団は地域防災の真のリーダであり、私達消防団員は地域防災に関しスペシャリストであると云う意識が持てるのではないでしょうか。そしてそれらを住民に指導する事により尊敬され、必要とされ、消防団員である自分が家族にとっての名誉となれば、おのずとやりがいが生まれるのではないかと思います。これはあくまでも理想ではありますが、少しずつ実現出来たら本当に良いことだと思っております。

先輩方が築いてくれた、消防団の歴史と伝統を守りつつ、代わりゆく世相に見合った新しい事を取り入れる事も大事なことではないでしょうか。各団員が消防団の訓練を本当の意味で理解し、やりがいと誇りを持った時再び、魅力ある消防団として生まれ変わると私は思います。

最後に私には４歳になる娘がいます。あいにくその娘は私の本業が消防士さんだと思っています。近い将来、武蔵村山市初の女性消防団員が誕生するかも知れません。３代目のサラブレッドとして、誇りを持って・・・。